

古 希

昭和 43 年卒 藤田 善秋

今年の正月、神社で「古希」のお祓いをしてもらった。しかし、最近、妻に「前以上に短気になったな」と言われる。

○靴下を履こうとしても、立って出来ないは仕方ないと思っていたが、近頃はズボンを立って履こうとしたらよろけてしまい、廊下を通りかかった妻に「何しょん？」と言われた。

○ドライブに行った時、助手席でメールをしている妻に「用事があるんなら電話したらええじゃろ、景色を見に来たんと言わんか。」と言うと「今、この時間に電話したら仕事で迷惑じゃろ。自分がメールできんと思うて・・・」反論できない自分がいた。

○地域の会合に行って、正論を言ったつもりが、「年金で生活しよる人はそれでええじゃろけどの。」の一言で私の意見は軽く一蹴された。

そんな時秘かに思い出すのは

○現職の校長時代、ある不登校の生徒が卒業時の色紙に書いてくれていた一言「校長先生の話にはオーラがあった。」その生徒は月曜日の全校朝礼の私の話の時だけは登校して私の話を聞いてくれた。

○香川県中学校教育研究会国語部会長をしていた時、年度のまとめの研究紀要のあいさつ文を苦勞して書きあげた。その文章を「弁当の日」で全国的に有名になった竹下校長が「授業の心構えとして、全職員に熟読せよと言ってコピーして渡した。無断で配ったが許してほしい。」との話を聞き、返答に困った。

「そっと、じっと、ずっと」を退職後のスローガンと決意していたはずの自分は、今どこをさまよっているのだろう。

先日妻と話をした。「お互い、いたわりあって生きていくのは無理なようだから、いたぶりあって生きていこう。」妻の不敵な含み笑いが不気味である。

後輩の何かの参考になるかな？